



沢始めはワイワイ～平成最後の沢登り～

丹沢 中津川ダルマ沢左俣

GW前半の一番天気の良い日に沢登りに行って来た。前日、岩トレを共にした栗原さんと大田原さんも一緒になったので8人だ。

4/28 快晴

新松田駅はハイカーで賑わっていたが、今日はこちら也大勢なので、振り返ると見知った顔があちこちにあった。田代向でバスを降りて、虫沢沿いの道をサンダルでのんびり歩く。花じょうろ道という古道や高松山登山口を案内する看板を見ながら1時間弱で入渓点の虫沢橋に到着した。虫沢橋には車が3台停まっていた。

表丹沢にくるのも、電車とバスでの山行も久しぶりだという大田原さんは、スタートにハンデがあったにも関わらず、この虫沢沿いの道をダッシュして追いついてくれた。さすがです。

堰堤を2つ越えたところから入渓。薄い靴下だったせいで水が冷たく感じる。分岐にはあつという間に着いた。左俣に入ると側壁が高くなった。しばらくすると行く手には狭いゴルジュにかかる8m滝。ここは左沢の小滝から右沢に巻き戻った。小滝の上は思ったより悪く、外傾した滑る小滝を栗原さんに登っ



強そうに見えた滝

てもらい、後続はゴボウで落石に気を付けながら越えた。陽が高くなり狭いゴルジュ内にも陽光が注ぐ。すぐ先にも大物の滝が見え隠れしているが、お腹も空いたので1本とる。目の前のガレた沢



幅広6m滝をフリーで登る

筋や南北に走る尾根の向きから、虫沢林道が一番近いところだと気が付く。すぐ先の大物の滝は行き止まりの滝であった。周囲に弱点はない。水流沿いが階段になっているように見えるとのことだったが、凝縮された水量は多くシャワー&ハーケンの世界だ。休憩した時に見えたガレ沢の上の方にピンクテープが見えたという情報から、少し戻ってそこから巻くことにする。登れないことはないのだが、スラブにガレが乗っている感じであまりよろしくない。巻きは、大滝の先を目指してさらにトラバースをかける。全員がスイスイと問題なく越えていたので一安心。沢に戻るとゴルジュ内に小滝は続くよ、どこまでも。4m滝は、若者曰く「強そうな滝」にみえたいが、乾いたりツジをサクッと登っていた。頼もしい。

【日程】

2019年4月28日(日)

【メンバー】

福永(L)、煤孫、

松本、飯島、

羽田野、杉本

栗原、大田原

【グレード】

1級上

【地形図】

山北

【記】福永



その先の幅広の6m滝はかなり細かそうで、登りたそうにしている羽田野君をなだめて全員で巻いているつもりだったのだが、ん？…大田原さんが取り付いている。滝を抜けるところが難しそうだったが見事にクリアした。さすがです。

小滝はあるものの倒木が目立つようになると、「もう左の尾根にあがりたい」という声がちらちらと聞こえ始めた。そんなベテラン勢の声を断固として拒否して、目的通り「桜丸」に会いこいくのだとリーダー権を発令する。「817mにピンポイントで出られたら美しいルートだよ」と羽田野君の共感を得たものの、ゼイゼイ言う身体は正直だ。疲れたので闇雲に登っていたらよくわからなくなり、結局少し上の830mくらいの稜線に出てしまった。こちら側は植林だったのが、西側には純林が広がっており、飯島君が素晴らしいと叫んでいたのが印象に残っている。息があがっていたが817mの「桜丸」までいく。そこには左右に大きく両腕を張った山桜が立っていた。まるで山の主のような存在感であった。ここまで大きくなるにはどれくらいの歳月がかかるのだろう。植林の中の住居では、大きな身体には手狭そうにみえた。

さてここからは尾根をひたすら南下すればJR東海の山北駅に行くことができる。一方、高松山を經由して東に降りると鍋割山稜が見えるとエアリアに書いてあるではないか…。欲張りな私は再びリーダー権を行使した。遠回りだが高松山を目指す。しかし桜丸からのアップダウンが地味に大変だった。薄い靴下のせいで足が硬直したのか、ふくらはぎは攣るし足が重い。私は這う這うの体で高松山に着いた。ここは素晴らしいの一言だった。広い草の原が広がっていた。白い富士山。相模湾・駿河湾・伊豆半島と展望も最高だ。ここを目的にまた来たいな。今度は左俣左沢からきてみようかしら。昼寝でもしていたい気分だったが、それは許されないのでぼちぼち下る。先頭に行く松本さんのスピードがとても速いのは、ルービーが呼んでいるからに違いない。あっという間に尺里峠（ひさりとうげ）。さらに舗装路を1時間半で山北駅についた。駅前にデイリーYがあり、そこで乾杯して長い日が終わった。

【行程】 4/28 虫沢橋(9:30)～奥の二俣P500m(10:00)～稜線P830(12:30)～桜丸P817(12:35)～ヒネゴ沢乗越(13:30)～高松山(13:50/14:10)～尺里峠(14:50)～山北駅(16:10)



桜丸と大人になれない子供たち

